

# 日本における成人移民を対象としたインクルーシブな職業訓練の検討 —在日ブラジル人コミュニティ内で展開されるパティスリー講習に着目して—

比較教育社会学コース ヨシイ オリバレス ラファエラ

指導教員 額賀美紗子

## はじめに

日本政府は、1990年以降、多数の移民労働者を受け入れてきた。短期滞在目的で来日した移民の滞在が長期化している一方で、移民の社会統合政策がない日本において、移民の社会参加やエンパワメントについての議論はあまり進んでいない。本研究で対象としている在日ブラジル人は国籍別ではフィリピンについて5番目に多く、人口は20万人以上にのぼる(出入国在留管理庁 2022)。在日ブラジル人のほとんどは雇用が不安定な自動車部品製造工場などで派遣労働者として勤務しており、ブラジル人の来日から30年以上が経った今も周辺的な立場に置かれている。特に、移民女性は、移民というマイノリティグループに所属するだけでなく、女性というジェンダー的な立場からさまざまな困難を強いられている。移民女性の中には、言語や文化的な障壁により、ホスト社会にうまく適応できず、孤立してしまう者も少なくない。

これまでの日本に住む移民女性に関する研究として、エンターテイナーとして来日し、日本人男性と結婚したフィリピン系の女性に関する研究があげられる。また、近年では、フィリピン人女性が介護労働者として来日するケースも増えている。先行研究では、外国人散在地域に住む傾向があるフィリピン系移民にとって、エスニック教会や、地域の国際交流協会が情報収集や社会関係資本の構築の場として重要な役割を果たしてきたことが明らかになっている(三浦 2016; 額賀 2019)。

一方、南米出身者など、フィリピン系以外の移民女性に関する研究の蓄積はほとんどみられない。ブラジル系の移民女性の生産労働、再生産労働、社会関係に関する量的調査を行った江成(2016)の研究によると、ブラジル人女性たちは、雇用形態や収入といった面で、ブラジル人男性と比べ不利な立場に置かれている。しかしながら、こうした不利な状況に置かれたブラジル人女性たちがどのようにしてこうした困難を乗り越えようとしているのかについては明らかにされてこなかった。

本研究では、在日ブラジル人コミュニティ内で展開されているパティスリー講習会での参与観察やインフォーマルなインタビューを通して、ブラジル人移民女性たちの日常生活やスキルアップにおける課題を明らかにし、また、パティスリー講習において参加者のニーズに応えるためにどのような工夫が行われているのかを検討する。本研究を通じて、日本における成人移民を対象としたインクルーシブな職業訓練の発展に貢献したい。

## 2. 先行研究の整理

### 2.1. 日本の成人移民を対象とした公的な職業訓練の現状と課題

世界的に移民・難民が急増する中、移民先進国では移民の社会的な包摂に向けた職業訓練が拡充している (Jeon 2019)。日本における成人移民が利用できる公的な職業訓練の場として文部科学省管轄の専門学校および厚生労働省管轄の職業訓練校が挙げられる。以降、それらの利点と課題を整理する。

専門学校に通う利点として、コースの選択肢が多いことが挙げられる。本研究で対象としている製菓系のカリキュラムを提供しているのは専門学校が多い傾向がある。しかしながら、専門学校に進学するにあたり面接や小論文、実技試験などの試験が課されることがほとんどである。そのため、日本語が第一言語ではない移民にとってはこうした試験に合格することは困難であるといえる。また、専門学校への進学費用は年間100万円程度であり、非正規労働者として製造業などの職に就いている在日ブラジル人の場合、高額な就学費用の捻出は容易ではない。加えて、専門学校は全日制で、就学期間が1年以上の学校がほとんどであり、特に子持ちの移民女性については仕事を中断して長期的に専門学校に通うことはあまり現実的な選択肢とはいえない。

一方、職業訓練校に通う利点としては、定住外国人向けのコース設置が少しずつ進んでおり、言語的なハードルは専門学校と比較して低いことがあげられる。また、コースの受講料もリーズナブルであり、中には補助金が支給されることもある。就学期間も専門学校と比較して短く、コースの開講時間も夜間や週末など、働きながら通えるプログラムが充実している。しかしながら、学べるコースの選択肢は専門学校よりも少ない傾向がある。本研究で対象としている製菓系のコースに関しては、専門学校が自治体から委託を受けて実施しているところもあるが、その場合、受講期間が長い傾向が見られた。

このように、現状の公的な職業訓練機関が実施する職業訓練は移民の現実と乖離的であり、生活向上やキャリア変更を望む移民が学びやすい環境であるとは言い難い。行政の対応が遅れる中、移民当事者たちが自らの状況を改善させるために動き始めている。ブラジル人コミュニティ内では、近年エスニック・ビジネスの中でも教育ビジネスが急速に発展し、このようなノンフォーマル教育を活用し、キャリアアップを目指す人が増えてきている。そこで、本研究では、在日ブラジル人コミュニティ内で展開されているパティスリー講習に着目し、カリキュラムなどを含む、その内実を明らかにする。

### 2.2 移民女性に関する研究

近年、女性の移動がアジア地域を中心に活発化している。こうした現象は *feminization of migration* と呼ばれ、移動経験におけるジェンダー差に関する研究が行われるようになってきている。こうした研究の多くは、フィリピン出身の家事労働者やケアワーカーに関する研究である。移民女性が抱える主な問題として、男性との賃金格差、*deskilling* (無技能化) が挙げられる。また、経済的、身体的な弱者である移民女性は暴力の対象になること

もある (UNESCO 2019; North 2019)。

本研究で対象としているブラジル人移民女性は、主に家族で日本に移住し、男性と同じく自動車部品等の工場で単純労働に従事している。ブラジル系の移民女性たちは、雇用形態や収入といった面で、ブラジル人男性と比べ不利な立場に置かれていることがこれまでの先行研究で明らかになっている (江成 2016)。ブラジル人移民は出稼ぎとして捉えられてきたが、定住・永住が進んでおり、女性たちの権利向上やエンパワメントの促進が課題となっている。

移民の社会経済的地位達成においては、人的資本や社会関係資本といった資本が影響すると言われてきた (Portes & Rumbaut 1996)。しかしながら、日本では移民女性がこれらの資本を獲得できる場が限られている。そこで、本研究では、ブラジル人コミュニティ内で展開されているパティスリー講習会に着目し、ノンフォーマル教育が移民女性たちの日本での生活や、キャリア形成においてどのような影響を与えているのかについて検討する。

### 2.3 エスニック・ビジネスに関する研究

移民研究の分野では、エスニック・ビジネスの起業は、移民の社会地位達成におけるルートの一つとして捉えられている。エスニック・ビジネスとは、「ある社会のエスニック・マイノリティが営むビジネス」であり (樋口 2012)、ビジネスを興すことで起業した当人だけでなく、同胞を雇用し職業訓練の場を提供することで、コミュニティ全体のエンパワメントにつながることを期待される (Portes & Rumbaut 1996)。

移民がエスニック・ビジネスを起業する上で重要となる要素として、人的資本、社会関係資本、および機会構造があげられる (樋口 2010)。人的資本とは、学歴といった資格や、言語能力、職業スキル・経験を指す。社会関係資本は、移民が持つコミュニティ内外とのつながりやネットワークのことである。これらのミクロな資源に対して、機会構造とは、移民特有のエスニックな財やサービスに対する需要がどれだけあるかといったエスニック・ビジネスを展開しやすい環境の有無を指す。

本研究の対象であるブラジル人は、日本で暮らす他のエスニック集団と比べて、人的資本、社会関係資本が少なく、また、日本社会におけるブラジル文化に対する関心もあまり高くないといわれてきた (片岡 2012)。そのため、中国系や韓国・朝鮮系などといった、他のエスニックバックグラウンドを持つ移民と比べてブラジル人起業家は少ない傾向がある。また、起業したとしても安定的な営業が見込みにくく、同胞の雇用創出や職業訓練の場の提供がみられないことが指摘されてきた。

しかしながら、こうした樋口 (2010) や片岡 (2012) の研究からすでに 10 年以上が経過しており、その間ブラジル人コミュニティは大きく変容している。重要な変化として、まず、通信ネットワークの発展があげられる。世界的な SNS の一般利用者数の増加に加え、企業の SNS を通じたマーケティング活動も活発化しており、ブラジル人コミュニティ内でも SNS が多様に使用されている。もう一つ重要な変化は、ブラジル人女性のビジネスの場面での活躍

の進展である。その中でも、パーティ・デコレーション関連のビジネスおよび美容に関連するビジネスを起業するブラジル人女性たちが増加傾向にある。また、起業家女性たちが持つ知識やスキルを「財化」し、教育コースなどを販売する動きも活発化している。

このように、エスニック・ビジネスが移民の社会参加やエンパワメントにおいて重要な役割を果たしているのにも関わらず、こうした変化を捉えた研究は行われていない。また、女性移民起業家についても、フィリピン人女性の起業に着目した研究はあるものの（高畑・原2012）、ブラジル人女性に着目した研究はない。そこで、本研究では、デコレーションケーキ販売というビジネス分野にチャレンジする移民女性たちがどのような課題を抱え、また、パティスリー講習が彼女たちをどのようにサポートしているのかを検討する。

### 3. 調査概要

#### 3.1 ブラジルにおけるパーティー文化

ブラジルでは、誕生日会、結婚式、ベビーシャワー、母の日、ニューイヤーといったお祝い事を盛大に祝うパーティー文化がある。そのため、パーティ業界は年々拡大しており、会場デコレーションや会場レンタル、フラワーアレンジメント、衣装、インビテーション、ケータリングといった業種で起業する女性も多い。そのパーティ文化の主役ともいえるのがデコレーションケーキである。ブラジル人のパーティは大人数で盛大に開かれるため、ケーキのサイズも大きいことが特徴的である。しかしながら、日本の一般的なケーキ屋で販売されているケーキは小さく、また料金も比較的高い。そのため、ブラジル人コミュニティ内では、甘くて、大きくて、かつ比較的安価なケーキ販売を行うブラジル人女性が多数存在する。特に愛知県や静岡県などのブラジル人集住地域ではパーティ需要が高く、ケーキ販売を行うブラジル人パティスリーの数も多い。こうした競争率の高い地域においては、パティスリーの技術が高ければ高いほど顧客獲得につながるのである。そのため、スキルアップを求めて定期的に女性たちがパティスリー講習を受講している。

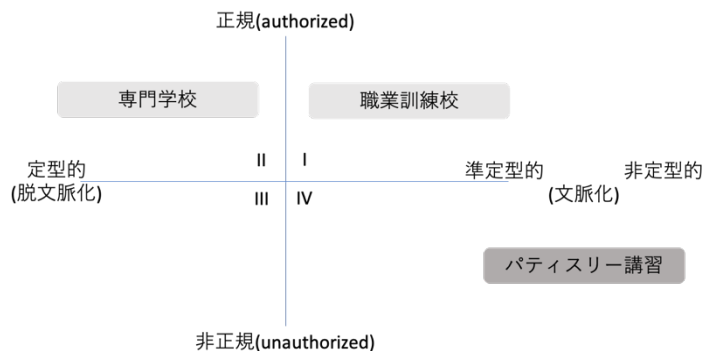
#### 3.2 パティスリー講習の位置付けおよび活動内容

Coombs & Ahmed(1973)の定義によると、フォーマル教育は、制度化された学校教育制度内の教育活動を指し、ノンフォーマル教育は正規の学校教育以外に、ある目的をもって組織された教育活動である。フォーマル教育とノンフォーマル教育の境界は普遍的に定まっておらず、日常生活との関係を示す「形式性」および公権力による教育機関の位置付けを示す「公式性」によって分類できる（丸山・太田 2013）。また、各社会の個別の事情や文脈によっても、教育実践の分類が変化する。本研究で対象とするパティスリー講習は非正規の機関であり、活動内容は非定型的であり、下記の図ではIV象限に該当する。

パティスリー講習はブラジル人集住地域にあるレンタルキッチンを借りて、不定期で主に週末に開催される。開催時間はレンタルキッチンの規定もあり、午前10時～午後4時の間で実施される。参加費はコースの内容にもよるが平均15,000円程度で、教材費、材料費、

昼食費が含まれる。昼食は、講習会のスポンサー企業（ブラジル人が運営するエスニック・ビジネス）から提供された料理や、講師や受講生持ち寄りの料理が提供される。集客方法については、既存の受講生には WhatsApp グループを使って告知し、新規の受講生については SNS を通じて集客していた。割合としては既存の受講生が 8 割、残りの 2 割が新規の受講生である。

図 1: 本研究で対象とする ENFE の位置付け



### 3.3 研究対象

本研究では、2021 年 3 月～2022 年 1 月にかけて合計 4 回講習会に参加し、参与観察を行なった（愛知県 2 回、滋賀県 1 回、三重県 1 回。予備調査では岐阜県も訪問）。その様子をフィールドノーツに記録し、そこには参与観察中に実施した、受講者や講師、スタッフに対するインフォーマルなインタビューの内容も記した。調査者は在日ブラジル人であり、ポルトガル語を母語とするため、インタビューは全てポルトガル語で実施した。

参加者の女性たちは全員が工場労働者で、年齢は 20～40 歳代である。子育て中の母親も多く、子どもを連れて講習会に参加する女性もいた。講師も同様に、出稼ぎ労働者として来日したブラジル人移民女性で、工場労働の仕事を経て、17 年前に長女が生まれたのを機に在日ブラジル人に対してケーキの販売を始めた。

参加する女性たちの 7 割が既にコミュニティ内でケーキを販売しており、2 割が家族や知り合い向けにケーキを作っているが、販売はしておらず、残りの 1 割が新しいことにチャレンジしたいといった趣味感覚でパティスリー講習に参加していた。

## 4. 移民女性たちの生活上およびキャリアアップにおける課題

在日ブラジル人コミュニティ内で展開されているパティスリー講習会での参与観察やインフォーマルなインタビューを分析した結果、ブラジル人移民女性たちの日常生活やスキルアップにおける課題として、①時間的な制約、②経済的な制約、③言語的な制約が浮かび上がった。以降、これらの課題についてより詳細にみていく。

### 4.1 時間的な制約

女性たちは主にフルタイムで工場勤務しており、仕事や子育ての傍ら、ケーキの製菓・販売を行なっている。そのため、たくさん注文を受けたり、家で練習したりするための時間を確保することが難しい状況に置かれていた。

調査者：これからケーキを販売する予定はありますか？

生徒A：私は家族用に作ろうと思ってます。

生徒B：私もです。ネイルの講習を受けてたんですけど、仕事でコースが続けられなくなって。工場で2交代勤務してるので時間が合わなくて。ケーキも、となると余裕がないですね。今でも個人的にネイルの仕事をしています。

(12月26日 滋賀県での初心者向けパリティスリー講習会のノーツ)

この会話からは、参加者の女性たちは新しく身につけたスキルを使ってケーキを販売したい気持ちがあるものの、時間的な制約により、家族向けに作ることが精一杯であることがわかる。ケーキ販売と一口に言っても実際に販売するまでにはさまざまな工程がある。ケーキの製菓そのものはデコレーションにもよるが大体2時間程度で完成する。しかし、材料の手配、注文発注、ケーキの配達といった全工程を含めればケーキ1つが消費者に届くまでに4～5時間程度かかるのである。また、宣伝も重要な仕事の一つであり、SNSに完成した商品をアップするための写真の撮影や投稿作業もある。そのため、参加者の多くは、時間が変則的な仕事や、子育てにより時間を十分に確保ができず、ケーキ販売を通じたキャリアアップを断念する傾向がみられた。

## 4.2 経済的な制約

ブラジル人女性たちは景気に影響されやすい製造業に従事しているのに加え、出産や子育てなどの家庭の事情で仕事を中断しなければいけないことも珍しくない。また、居住地域や、コミュニティ内の競合の有無等により、ケーキの注文数も不安定である。そのため、スキルアップを目指して講習会を受講したくても金銭的な余裕がなかったり、ケーキ販売のビジネスを拡充させたくても地理的な条件により拡大できない女性たちがいた。

調査者：ケーキを販売されてるんですか？

生徒C：工場でケーキを売ってたんですけど、引っ越して注文が入らなくなって。ケーキの配達ができないので。

調査者：講師の方みたいにクール便で送ったりしないんですか？

生徒C：勇気がなくて。クール便はくずれやすいから怖くて。配達業者からもケーキだったら配達できないっていわれて。

(1月30日 愛知県での上級者向けパリティスリー講習会のノーツ)

講師はブラジル人非集住地域で暮らしており、独自のデコレーションケーキの冷凍方法を開発し、他地域への販売も行っている。こうした技術は講習の際に参加者に伝授されていたものの、スキルに自信があまりない参加者にとって冷凍発送はハードルが高いことが生

徒Cとの会話からうかがえる。

こうした立地的な問題に加えて、ケーキの需要はシーズンによっても大きく変動するため、ケーキ販売で持続的に利益を得にくいことも女性たちのパティスリーとしての経済的な自立を困難にしていた。在日ブラジル人コミュニティ内で特にケーキの需要が高い時期は母の日、ゴールデンウィーク、夏のお盆休みと年末年始に限定されており、それ以降は、バースデーパーティなど不定期なイベントでしか収入を見込めない。とくに2020年～2022年にかけては新型コロナウイルス感染症の影響によりブラジル人コミュニティ内でパーティがほとんど開催されなくなり、ケーキの需要も極端に落ち込んだ。こうした不安定な状況にある女性たちにとって、ケーキ販売一本で生計を立てることは容易ではないといえる。

### 4.3 言語的な制約

女性たちの多くは日本で長年暮らしているが、日本語レベルが初級程度であり、日本のスーパーや、日本語のウェブサイトを使った材料の調達に苦労していた。参加者の中にはブラジル本国のパティスリーの講習を受けたことがある人もいたが、ブラジルでしか手に入らない材料が使われることも多く、あまり参考にならないとのことだった。また、ブラジルと日本の気候は異なるため、ブラジルのレシピ通りにケーキを作ろうとしても、日本の夏の湿気や冬の乾燥によりうまく焼き上がらないこともよくあるという。そのため、材料選びは重要なステップであり、受講生は材料を間違っ

図2：スマホを片手に熱心に講師の説明を聞く受講生の様子



ないように必要に応じて講師の調理台に並ぶ材料の写真をスマートフォンで撮影しながら受講していた。

「これ、写真とっていいですか？」とブロンドヘアの女性がコーンスターチの袋を手に取り講師に尋ねる。「もちろん」と講師が答える。

(12月19日 愛知県での上級者向けパティスリー講習会のノーツ)

講習会で使用されていた材料は主に一般的なスーパーで手に入るものだが、中にはパティスリー製品の専門店でも手に入らないものもあり、講師を含めそうした材料を購入する際は、ウェブサイトの翻訳機能を用いながら購入しているという。

また、言語的な障壁は、女性たちの顧客拡大を困難にするといった課題もある。参加者の中には、工場の仕事仲間の日本人にケーキやブラジルのスナック菓子などを販売する人もいたが、こうした人はごく少数であった。大半の女性たちは日本語のコミュニケーションの問題により顧客を在日ブラジル人に絞らざるを得ない状況にあった。

このように、パティスリー講習の参加者の女性たちは、時間的、経済的、そして言語的な

制約により日本でのパティスリーとしてのスキルアップやキャリアアップに苦戦していた。こうした制約を抱えながらも女性たちがパティスリー講習に通い続ける背景には講師の細やかな配慮があった。そこで、次章では女性たちのスキルアップとキャリアアップを支える講師の取り組みについて検討する。

## 5. 講師による工夫

出稼ぎ労働者であり、かつ母親でもある講師は、受講生たちが経験するさまざまな制約を乗り越えながら日本でパティスリービジネスを展開してきた。こうした自身の経験を踏まえて、講師は受講生に時短テクや節約術を伝授したり、言葉の壁を乗り越えられるようにファシリテーションしたり、受講生のセルフエスティームを高めたりするなどの工夫を行っていた。本章では、こうした講師によるさまざまな工夫を詳細にみていく。

### 5.1 時間のなさを解消する時短テクの伝授

受講生の多くは、平日は工場で働き、週末にケーキを販売しているため、1日でどれだけケーキを作れるかが収入を上げる鍵となる。そのため、流れ作業で効率的にケーキをベイキングしたり、デコレーションしたりするスキルが必要となる。そこで、講習会や教材では講師が考案した時短テクが豊富に紹介されていた。また、仕事や子育てで時間に追われる女性たちがいつでもスキルアップできるように講師は YouTube などの SNS を活用してレシピやテクニックの紹介も行っていた。

「シロップをつかうひともいるけど、それはちょっとちがうと思う。ハチミツじゃないから。シナモンをいれるけど、私はあんまり好きじゃないので少なめにしています。これはお好みで。次にキッチンペーパーを敷いた型に生地を流し込みます。前回の滋賀のイベントの時にも説明したんですけど、私は時短テクとしてマーガリンや小麦粉を型に使わないようにしています。あとで洗わなくていいようにね」

(1月23日 三重県でのチョコレートパティスリー講習会のノート)

ブラジル人の家庭ではケーキが型に引っ付かないようにマーガリンを型に塗り、その上に薄く小麦粉をかけることが一般的である。しかし、この工程では型を洗う手間が増えるだけでなく、その分材料費も発生するため非効率であるといえる。そのため、講師は受講生にキッチンペーパーを使った時短テクを紹介していた。

また、女性たちがケーキを作り置きできるように、冷凍保存に適した生地づくりや、冷凍庫での保存方法、解凍方法についても紹介していた。

「ケーキにシミらせるシロップにはココナッツミルクを使います。水を入れると冷凍ができないので。ブラジルではガラナを使ったりする人もいますが、露結するので、お



勧めしないです。チョコレートケーキにするときは、ココナッツミルクの白色が残らないように少しだけ水を入れてココアパウダーと混ぜます。チョコレートに白いのが残ってしまうと、ケーキが腐っていると思う人もいますので」

(12月26日 滋賀県での初心者向けパティスリー講習会のノート)

スポンジケーキをしっとりさせるため、ブラジルではガラナと呼ばれるフルーツを使ったジュースをスポンジ生地にかけることが一般的である。しかし、ケーキを冷凍すると露結してしまい、解凍すると味が水っぽくなってしまうため、講師はガラナではなくココナッツミルクを使用するよう受講生にすすめていた。

こうした時短テクは、講師が数々の失敗を重ねながら発展させてきたものであり、受講生にとって非常に有益な情報であるといえる。

## 5.2 不安定な収入をカバーする節約術の伝授

材料費を抑えることができれば、その分ケーキ販売の利益幅を上げることが可能になる。そのため、講師は、材料費を節約するために、余った材料を再利用したり、ベーキングプロセスでの失敗を極力減らしたりするコツを受講生に紹介していた。

### 【失敗しないケーキ作りの基本】

ケーキがうまく作れないと、イライラしてしまう人もいます。しかし、上手にケーキを作るためには、基本的なルールに従う必要があります。オーブンの温度、型の大きさや材料が室温でなければいけません。ルールは以下の通り：

卵は大きめのサイズでケーキの食感を損なわないようにする必要があります。

小麦粉をふるいにかけて、塊ができないようにします。(以下省略)

(12月26日 滋賀県での初心者向けパティスリー講習会の教材の引用文)

ケーキ作りで使用する道具も100円ショップなどで手軽に手に入るものを使用することで、初心者にとっても経済的な負担をなくす工夫がなされていた。実際に12月に滋賀で行われた初心者向けの講習会では、プロが使用するケーキの回転台の代わりに100円ショップで売られているテレビの回転台が使われていた。

余った材料については、冷凍して別のデコレーションに使用したり、カップケーキ用に使用したり、練習用に保存したりとさまざまなアレンジ方法が紹介されていた。こうした再利用は材料費を抑えるだけでなく、一から生地などを作る手間も省かれるため、受講生にとっては知っておくと大変便利な情報であるといえる。

受講生の中には、自分の家族のバースデーパーティのケーキを自分で作るという人も多いため、材料費の節約は、家計の出費の減少にもつながることが期待される。ブラジル人コミュニティ内で販売されているバースデーケーキの相場は5千円～1万円程度(15～30切

分)であり、家族の人数によっては大きな負担となる。そのため、こうした節約術は家計にもプラスに働くといえる。

### 5.3 言葉の壁を乗り越えるためのファシリテーション

受講生の中には、長年ケーキの販売を行っており材料に詳しい人もいたが、中には全くの初心者で、どこでどんな材料を調達すればいいかわからない人もいた。材料や道具によっては中国やイギリスといった海外から取り寄せないといけないものもあり、日本語や英語を母語としない受講生にとって材料調達は容易ではない。そこで、受講者の負担を減らすため、講師は自身のウェブサイトで材料を販売したり、教材に材料の写真を掲載したり、講習会開催時に、ミニショップを設置したりしていた。

図3：レンタルキッチンに設置されたミニショップ



初心者にとっては知らない調理道具なども多く、ミニショップを設置することで、直接講師と話しながらアイテムを購入できるといったメリットがある。さらに、その場でツールを購入すれば、すぐに新しく学んだスキルを活かしてデコレーションケーキを販売することもミニショップの魅力であるといえる。言語は、時短テクや節約術の実践とも密接につながっているため、こうした講師のファシリテーションは、パティスリーに対する受講生の心理的なハードルを下げる効果が期待できる。

### 5.4 参加者のセルフエスティーム（自尊心）を高める声かけ

参加者の9割がパティスリー未経験者であり、来日後に独学でデコレーションケーキの技術を身につけていた。そのため、ハイレベルなスキルの習得に苦戦する受講生も多く、そうした人に対して講師は丁寧な声かけを行っていた。また、教材にも受講生が夢を諦めないようにモチベーションを高めるようなフレーズが盛り込まれていた。

「常に自分の夢の美しさを信じ、それを実現する能力をあなたは持っているということを忘れないでください。決してあきらめないでください。そうすればあなたは勝者になれます！」

(12月26日 滋賀県での初心者向けパティスリー講習会の教材の引用文)

また、講師は、毎回コースの終了時に受講生にサーティフィケート（修了書）を渡して、達成感を得られる工夫をしていた。受講生はそれぞれ自分が作ったケーキとサーティフィケートを片手に嬉しそうに自撮りをしたり、自慢げに自分たちのケーキを見せ合いっこしたりしていた。こうして一度講習会を通じてエンパワーされた女性たちは、パティスリー講

習会のリピーターになる傾向がみられた。

## 6. まとめと考察

本研究では、在日ブラジル人コミュニティ内で展開されるパティスリー講習会に着目し、ノンフォーマル教育が移民女性たちの日本での生活や、キャリア形成においてどのような影響を与えているのかについて検討した。在日ブラジル人の女性たちは、時間的、経済的、言語的な制約があるなかで、スキルやキャリアアップを目指して積極的に講習会に参加していた。参加者の中には調査者が参加したすべての会に参加していた女性もいた。

女性たちが熱心にパティスリー講習に通い続ける背景には、出稼ぎ労働者出身で、母親でもあるパティスリー講師が生み出したさまざまなインクルーシブな工夫があった。講師は、参加者の女性たちが限られた資源を効率的に活用できるように、時短テクや節約術を伝授していた。また、講師は、調理グッズの販売などを通して、女性たちが講習での学びをすぐに実践に移し、講習への投資に対するリターンをより早く得られるようにファシリテートしていた。これらの実践は、講師によるアフターマティブな声かけや、修了証の授与といった参加者のセルフエスティームを高めるための工夫を取り入れることでさらに女性たちのエンパワメントを促進させていた。

パティスリー講習の場は、参加者にとってスキルアップの場だけでなく、情報交換の場としても機能していた。作業時間や、ランチタイム、講習終了後の時間を利用して女性たちは、パティスリー関連の情報だけでなく、育児や仕事、日常生活に関する情報を交換し、その輪はSNSのグループにも広がっていた。

こうした人的資本や社会関係資本の他に、パティスリー講習を通じて受講生はアントレプレナーシップの土壌となる文化資本も蓄積していた。アントレプレナーシップとは、新たな事業を興そうとする姿勢のことであり、その水準を示すものとして経営学の領域ではしばしば Entrepreneurial Orientation という概念が使われる。Entrepreneurial Orientation を構成する要素として、proactiveness(積極性)、innovativeness(革新性)およびrisk taking(リスクテイキング)があげられる (Lumpkin and Dess 1996)。受講生は、起業家である講師から直接学ぶことで、デコレーションケーキ分野の最新の技術を学んで市場のニーズに対して積極的に対処する姿勢を身につけていた。また、効率的なベイキング/デコレーション方法を学ぶことは、受講生のこれまでの作業工程に革新性をもたらすきっかけとなっていた。さらに、自らも母親であり、出稼ぎ労働者出身であり、数々の困難を乗り越えてきた講師に背中を押されて独立を目指したり、新たな商品の展開を目指したりする受講生も見られた。

本研究により、移民女性も参加しやすいインクルーシブな職業訓練を構築する上で有用な知見を得ることができた。今後は、パティスリー講習の受講者の女性たちへのインタビューや追跡調査を通じて、女性たちが日本で起業家としてキャリアを積む上での課題および改善策を検討していきたい。

## 参考文献

- Coombs, P. H., Prosser, R. C. & Ahmed, M. (1973). *New Paths to Learning for Rural Children and Youth*, ICED.
- Jeon, S. (2019). *Unlocking the potential of migrants: cross-country analysis-OECD reviews of vocational education and training*.
- North, A. (2019). *Gender, Migration and Non-Formal Learning for Women and Adolescent Girls*. (Background paper prepared for the 2019 Global Education Monitoring Report Gender Report.). In: UNESCO. (2019). *Global Education Monitoring Report – Gender Report: Building bridges for gender equality*. Paris: UNESCO.
- Lumpkin, G. T., & Dess, G. G. (1996). Clarifying the entrepreneurial orientation construct and linking it to performance. *Academy of management Review*, 21(1), 135-172.
- Portes, A and Rumbaut, R. G. (1996). *Immigrant America: a portrait*. University of California Press
- UNESCO. (2019). *The Intersections between Education, Migration and Displacement are Not Gender-neutral*. *Global Education Monitoring Report*
- 江成幸 2016. 「ブラジル人移住労働者の生活構造におけるジェンダー要因に関する考察」『三重大学人文学部文化学科研究紀要』33号, 13-20.
- 片岡博美 2012. 「ブラジル人—揺れ動くエスニック・ビジネス」樋口直人編『日本のエスニック・ビジネス』103-132. 世界思想社.
- 出入国在留管理庁 2022. 「令和3年末現在における在留外国人数について」  
[https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/13\\_00001.html](https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/13_00001.html) (2022年5月8日アクセス)
- 高畑幸・原めぐみ 2012. 「フィリピン人-『主婦』となった女性たちのビジネス」樋口直人編『日本のエスニック・ビジネス』159-187. 世界思想社.
- 額賀美紗子 2019. 「外国人家族の《見えない》子育てニーズと資源仲介組織の役割: 外国人散在地域におけるフィールド調査からの政策提言」『異文化間教育』49号, 44-60.
- 樋口直人編 2012. 『日本のエスニック・ビジネス』159-187. 世界思想社.
- 樋口直人 2010. 「在日外国人のエスニック・ビジネス—国籍別比較の試み」『アジア太平洋レビュー』7号, 2-16.
- 丸山英樹・太田美幸編 2013. 『ノンフォーマル教育の可能性—リアルな生活に根ざす教育へ』新評論.
- 三浦綾希子 2015. 『ニューカマーの子どもと移民コミュニティ: 第二世代のエスニックアイデンティティ』勁草書房.